

高知県感染症発生動向調査（月報）

2022年1月

高知県感染症情報センター

高知県衛生環境研究所

TEL:088-821-4961 FAX:088-825-2869

<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/>

E-mail: 130120@ken.pref.kochi.lg.jp

全国情報

第1週(1月3日～)から第4週(～1月30日)までの4週間に報告の多かった疾患は表1のとおりである。全国における1月の上位6疾患の合計は33.14で12月の4週換算値34.74と比べて横ばいであった。同じ1月では、過去10年間では2021年の16.83に次いで2番目に少なく(例年90～200台)、コロナ対策によりインフルエンザをはじめ日常的感染症は抑制されている。

1位は感染性胃腸炎で26.45(同1位4週換算値24.98)と横ばいであった。2位はA群溶血性レンサ球菌咽頭炎で1.92(同3位2.51)と減少した。3位はRSウイルス感染症で1.58(同4位1.30)と増加した。4位は手足口病で1.28(同2位3.75)と減少した。5位は突発性発疹で1.13(同5位1.18)と横ばいだった。6位は位咽頭結膜熱で0.78(同6位1.02)と減少した。

〈全国の新型コロナウイルス感染症 COVID-19〉

第6波が到来した。1月に入って、日本でもオミクロン株(○株)が感染爆発を起こし、増加の一途をたどっている。昨年11月26日にWHOが、南アフリカ由来のこの株を『懸念される変異株(VOC: Variant Of Concern)』に指定し○株と命名した。α株とδ株は、強い感染力・重症度が問題となり都市部を中心に医療崩壊を惹起した。一方、この○株の特徴は、感染力が最強、潜伏期も短い(沖縄県での調査では約3日、○株以外の4.8日より短い)、肺よりも上気道で増殖しやすい、重症化しにくい、小児感染例が多いとされる。沖縄、岩国の米軍基地から感染が広がったことも苦い記憶となった。ワクチンの効果も減衰してきているので、○株の感染爆発で第一線診療が混乱を来している。また、重症者増加による医療逼迫も再び危惧される事態となった。3回目の追加接種を早く施策が打ち出されている。目下、新型コロナウイルスのいわゆる「馴化」の過程にあつて、パンデミックからエンデミックへの移行期に入ったと思われる。

世界の患者数は、2月1日には3億7千万人を、死亡者は567万人を超えた(図1)。患者数を国別にみると、2月1日現在、1位米国(7,494万人、人口あたりの感染率22.77%)、2位インド(4,146万人、感染率3.03%)、3位ブラジル(2,546万人、感染率12.07%)、4位フランス(1,926万人、感染率28.53%;感染率は英国、米国を上回り1位)、5位英国(1,743万人、感染率26.76%)、6位ロシア(1,167万人、感染率8.00%)、7位トルコ(1,161万人、感染率13.93%)、8位イタリア(1,098万人、感染率13.15%)、9位ドイツ(1,002万人、感染率21.45%)、10位スペイン(996万人、感染率16.45%)である。

日本の患者数を図1右に示す。4月～6月はα株(英国型変異株)、7～8月はδ株(インド型)の流行による患者急増がみられた。9月以降は増加がゆるやかとなり、ワクチン接種の効果と思われた(12/5時点で全国では全人口の85.0%が2回の接種を受けた)。しかし、1月になって○株による感染爆発(第6波)が起き、2月5日には初めて1日の国内感染者数が10万人を超え、2月5日の時点でまだピークアウトしていない。日本では○株対策として、減衰した抗体価を再度上昇させるために(ブースター効果)、3回目の追加接種を12月から医療従事者を対象に開始し、引き続き早急な実施に向けて号令を発した。2月1日現在の国内感染者は、2,730,828人、死亡者は18,792人となった。患者数の増加に比して死亡数の増加はゆるやかであるが、病状悪化は遅れて生じることや医療逼迫の影響も予想されるので経過を注視されたい。

○株に対するワクチンの効果について英国保健当局が次のように報告している。ファイザーやモデルナのmRNAワクチンで、2回の接種から2～4週間後には発症予防効果が65～70%だったが、接種後20週を超えると10%程度に下がる。しかし、ファイザーのワクチンを2回接種した人が3回目にファイザーかモデルナの追加接種をすると、2週間から4週間後には発症を防ぐ効果は65%～75%に上がった。ただ、3回目接種から5～9週間後では55～70%に、10週を超えると40～50%に下がったと報告している。その一方で、重症化(入院)を防ぐ効果は、発症予防効果よりも高く、ファイザー、モデルナともに、2回の接種後2～24週間では72%、25週超でも52%、3回目の追加接種をしたあと2週以降では88%にもち上がる。

第6波が到来して全体に致死率が低下してはいるが、高齢者ほど重症化しやすい特徴は変わっていない。各年齢層の死亡率は（1月4日現在→2月1日現在）、80代以上 14.3 %→10.4 %、70代 5.4 %→3.8 %、60代 1.6 %→1.1 %とこの1か月で急速に低下した。しかし、感染者実数の激増を勘案すると、死亡総数が減るとは限らず予断を許さない。経時的な年齢層別患者数を図2Aに、2月1日時点で累積感染者数が人口に占める割合を図2Bに示す（総務省統計局作成の2021年8月現在人口推計を用いて算出<https://www.stat.go.jp/data/jinsui/pdf/202108.pdf>）。感染者の割合は、20歳代が最大で5.14 %（100人あたり5.14人が感染）、次いで30代の3.21 %、10代3.08%、10歳未満2.35%、40代2.32 %と続いている。

表1 各週定点当たり報告数（全国）

No	疾病名	週	1週	2週	3週	4週	計
1	感染性胃腸炎		4.66	6.65	8.04	7.10	26.45
2	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.39	0.47	0.58	0.48	1.92
3	RSウイルス感染症		0.28	0.31	0.50	0.49	1.58
4	手足口病		0.37	0.33	0.32	0.26	1.28
5	突発性発疹		0.26	0.32	0.30	0.25	1.13
6	咽頭結膜熱		0.25	0.19	0.20	0.14	0.78

県内情報

1. 全国との対比（定点当たり報告数）

高知県の1月の上位6疾患の合計は26.44で1月の4週間換算値16.63と比べて増加したが、全国よりも少なかった。同じ月で比べると2020年の10.54に次いで2番目に少なかった（2019年以前は60～210台）。

1位は感染性胃腸炎で21.57（12月1位の4週換算値10.83）と増加したが全国よりも少なかった。2位はA群溶血性レンサ球菌咽頭炎で1.97（同2位2.51）と減少、3位は突発性発疹で1.25（同4位1.28）と横ばいで全国と同等だった。4位は咽頭結膜熱で0.85（同3位1.32）と減少し、全国と同等だった。5位は水痘で0.47（同6位0.32）と増加し、全国よりも多かった。6位は流行性角結膜炎で0.33（同8位0.26）と増加したが、全国よりも少なかった。

＜高知県のCOVID-19＞

高知県におけるCOVID-19の月別患者数を図3に示す。東京五輪とともに急増し8月の集計は1,382人に昇り、8月25日には、県の1日最多の111人を記録した。9月の632人を境に減少に転じ、11月12日を最後に48日間連続の報告ゼロが続いた。しかし、2022年1月4日から患者数が急増し第6波に突入して以後は増加をつづけ、2月1日には最多の263人が報告された。2月2日時点の集計では感染者は6,474人、死亡は37人である。

1月に高知県で検出・解析されたウイルス変異株の内訳を図4に示す。1月4日に県で初の〇株が検出されている。1月上旬の大半はδ株であったが、1月中旬以降に〇株が増加し、主たる流行株が置き換わった。感染者の年齢分布を第5波（δ株が流行した8-9月）と第6波（〇株による1-2月）とで比較し図5に示した。第5波に比べて第6波では、10歳未満の小児と60歳代以上の高齢者の割合が増え、どの年代層も均等に感染する傾向がみられる。

2月2日、感染急増で県内保健所の業務が逼迫し、濃厚接触者の調査を縮小せざるを得なくなった。県と高知市は、PCR行政検査の対象を絞り込み、学校・保育施設の子どもや職員も原則対象外とした。患者の接触歴の聞き取り調査は限定され、濃厚接触者への連絡も患者本人に頼る状態となっている。また、県は2月3日、感染者の濃厚接触者に発熱などの症状があった場合、検査をせずに医師が感染したと判断する「みなし陽性」の運用を始めた。

県の対応ステージは、8月19日に「非常事態（紫）」に引き上げられたが、患者減少を受けて10月28日には「感染観察（緑）」に引き下げられていた。しかし、第6波の到来により、翌2022年1月7日「注意（黄）」、同14日に「警戒（オレンジ）」、20日に上から2番目の「特別警戒（赤）」に引き上げられた。3回目のブースター接種の準備が進められ、同時に5-11歳の小児への接種が開始されようとしている。

表2 各週定点当たり報告数（高知県）

No	疾病名	週	1週	2週	3週	4週	計
1	感染性胃腸炎		3.39	4.68	6.57	6.93	21.57
2	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.36	0.43	0.57	0.61	1.97
3	突発性発疹		0.25	0.18	0.46	0.36	1.25
4	咽頭結膜熱		0.32	0.14	0.25	0.14	0.85
5	水痘		0.11	0.07	0.11	0.18	0.47
6	流行性角結膜炎		0.00	0.00	0.33	0.00	0.33

図1,2022年2月1日時点でのCOVID-19(厚生労働省HPから)

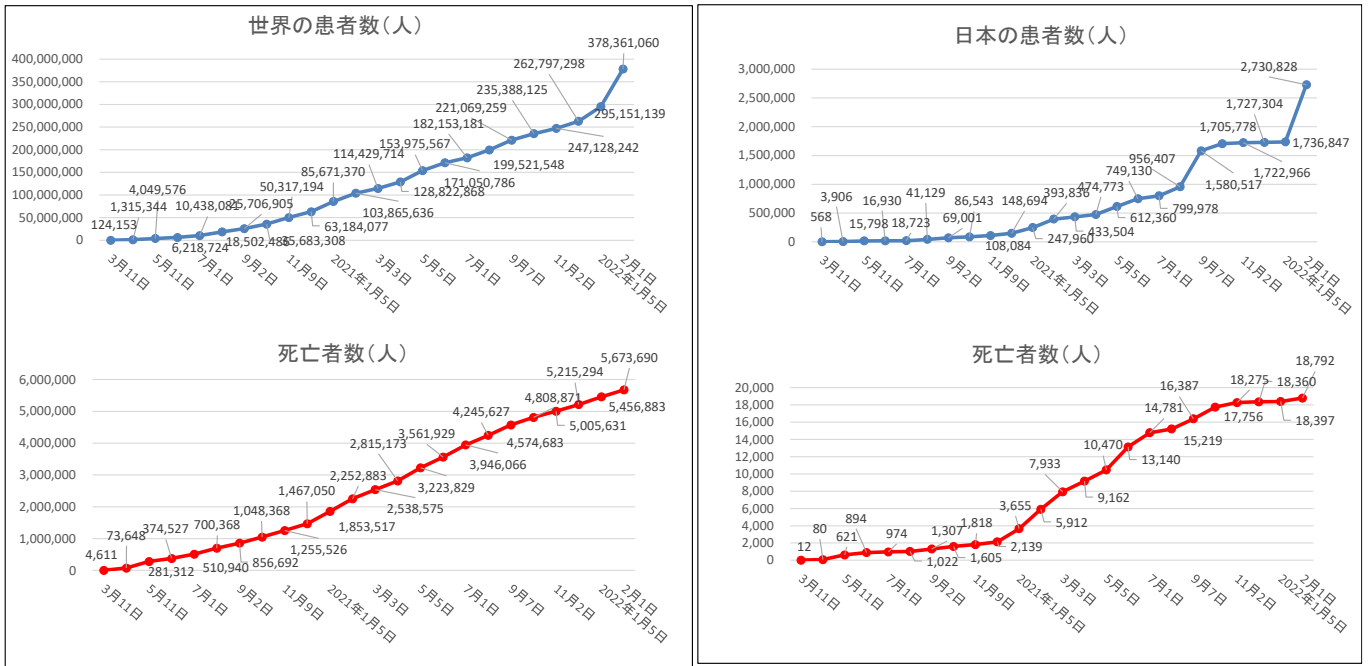


図2A, 経時的な年齢層別感染者数

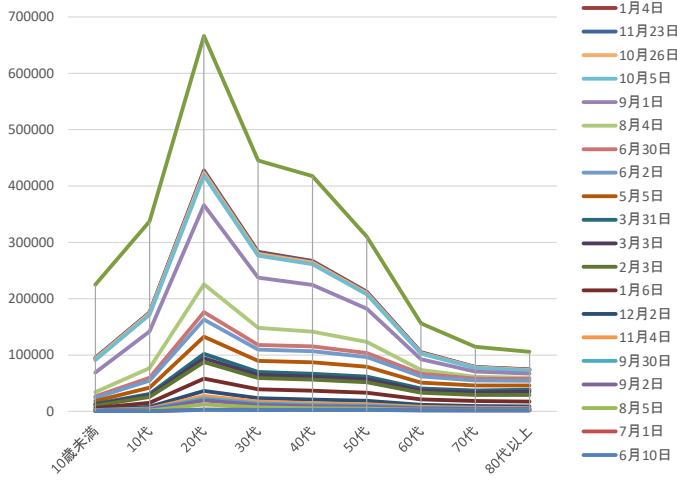


図2B, 年代階層別感染者割合 (2022/2/1時点)

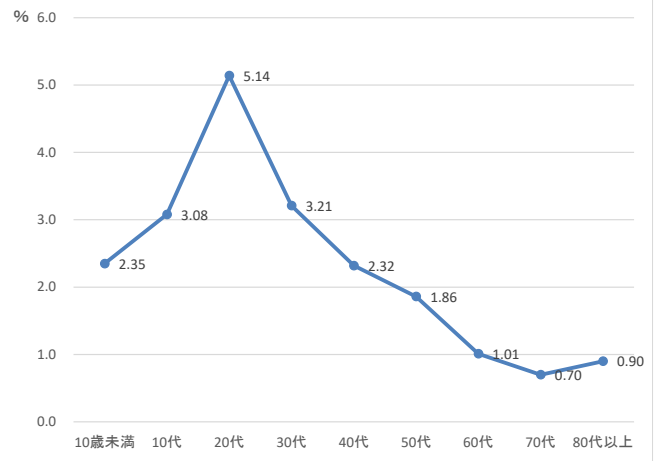


図3.高知県のCOVID-19月別患者数
～2022年2月2日

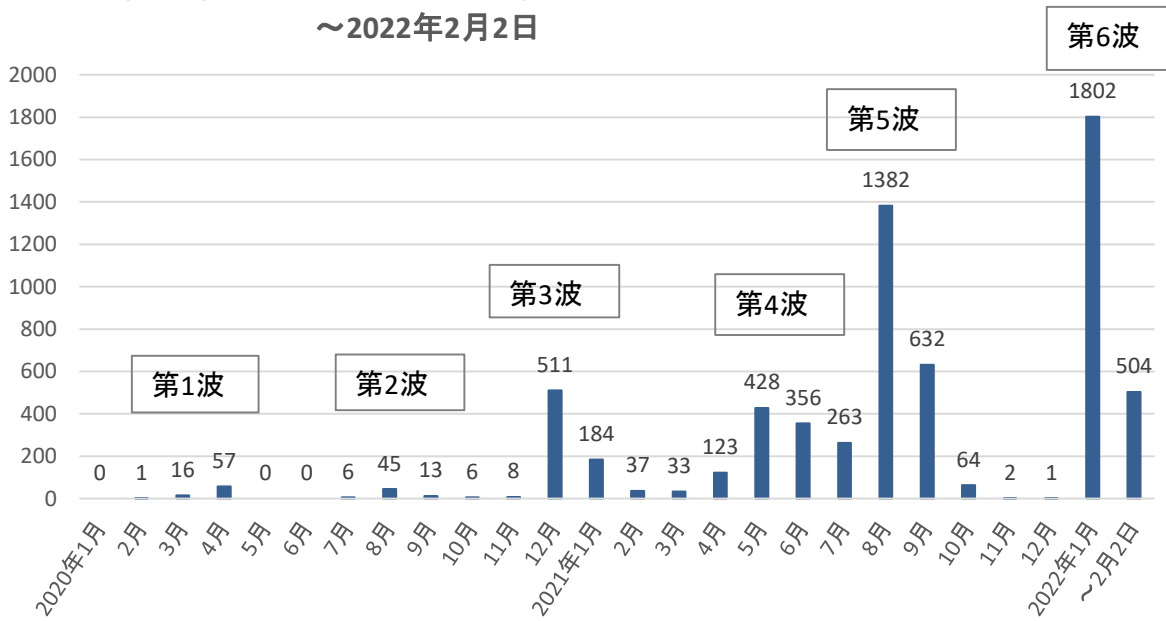


図4.高知県で検出されたウイルス変異株の内訳

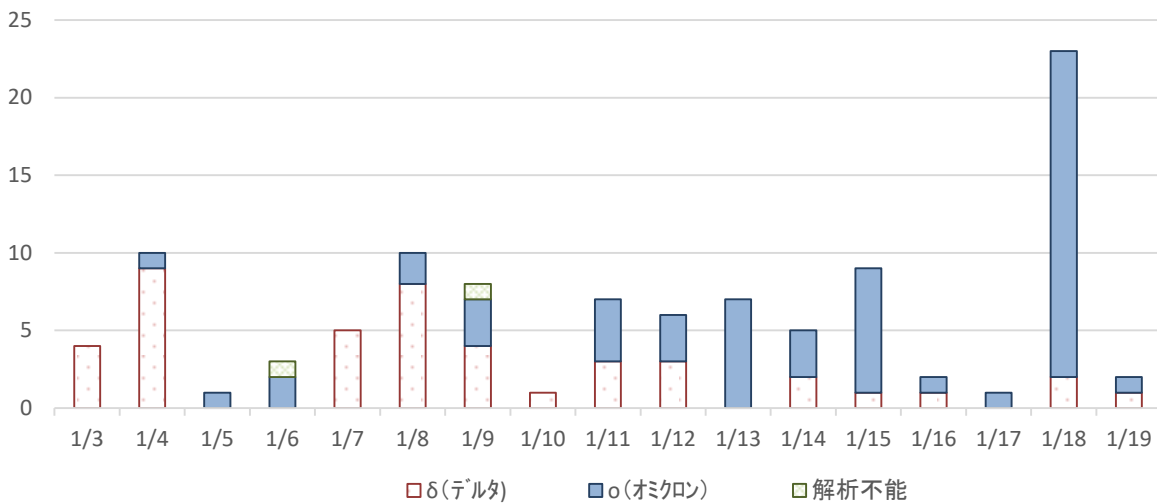
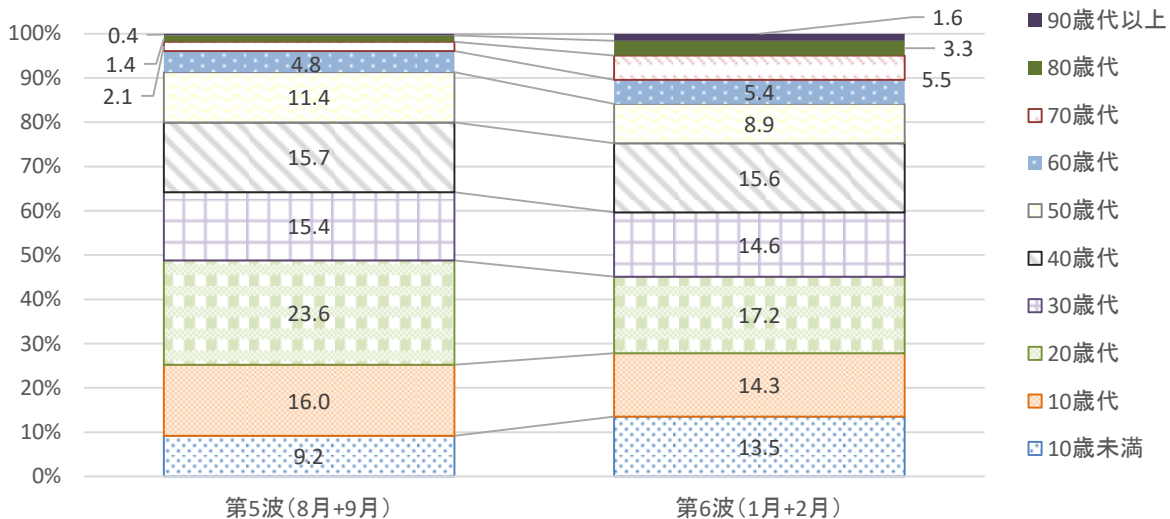


図5.知県新型コロナウイルス感染症年齢別第5波と第6波の比較



2. 全体の傾向

麻しん、風しんの報告なし。COVID-19流行による衛環研の業務増大のため、感染症発生動向調査としての病原体を検出する事業を1月から再び休止している。

3. 主な疾患の発生状況

1) インフルエンザ

報告数 7名 (12月 3名)。2020-21年シーズンは流行がなく、これは統計がある1998年以降で初であった。対新型コロナウイルスの感染対策とインフルエンザワクチン接種の徹底によるものだったと推測される。2021-22シーズンも今のところ県下でも全国各県においても流行は始まっていない。須崎から7名 (4歳児が1名、成人が6名) が報告された。ウイルスは検出されていない。

2) 咽頭結膜熱

報告数 24名 (12月 46名)。この時期としては標準的な数である。幡多、高知市、中央東から表記の順に多く報告された。アデノウイルス2型が1件検出された。

3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

報告数 55名 (12月 88名)。この時期として過去10年間で昨年に次いで2番目に少ない報告数であった。県下全域から報告があり、高知市、安芸、幡多が特に多かった。細菌は検出されていない。

4) 感染性胃腸炎

報告数 604名 (12月 379名)。昨12月以降は増加し平年並となった。県下全域から報告された。病原体は検出されていない。

5) 水痘

報告数 13名 (12月 11名)。2014年10月からの予防接種定期化の効果で少ない数で推移している。10月以降は過去10年の最少で推移している。安芸、中央西、高知市、中央東から報告された。

6) 手足口病

報告数 3名 (12月 13名)。2020年は7月と10月にピークがあり二峰性であった。10月をピークとした流行が年を越えてだらだらと続いていた。2021年は、7月から増加を続けたが10月から減少に転じ終息に向かっている。須崎と高知市から報告された。ウイルスは、1月は検出されていないが、11月に採取された手足口病の患者検体からCoxsackievirus A6が3件検出され流行株と推測される。

7) 伝染性紅斑

報告数 3名 (12月 1名)。2020年9月以降は1けたの報告数が続く。高知市から3名が報告された。ウイルスは検出されていない。

8) 突発性発疹

報告数 35名 (12月 45名)。想定内の変動である。

9) ヘルパンギーナ

報告数 1名 (12月 6名)。2021年は5月に流行が始まり、同時期としては過去10年で最多となり早い流行となった。6月、7月となだらかに増加して平年並みの流行規模に落ち着き、8月は減少、9月は再度増加したが10月以降減少し終息に向かっている。幡多から1名報告があった。流行ウイルスは特定されていない。

10) 流行性耳下腺炎

報告数 1名 (12月 1名)。10月以降は、同時期として過去10年で最少が続いている。高知市から1名報告された。ウイルスは検出されていない。

11) RSウイルス感染症

報告数 0名 (12月 2名)。2020年は11月～3月は異例のゼロが続いた。2021年は、5月57名、6月395名、7月1,543名と急増した。8月は1,013名と減少に転じ、9月193名、10月以降は収束した。2021年の夏は季節外れの爆発的流行があったが、その後は秋以降に流行がなく、季節性が逆転している。

12) 流行性角結膜炎

報告数 1名 (12月 1名)。高知市で1名が報告された。

13) 細菌性髄膜炎 (基幹定点の報告疾患)

報告数 0名 (12月 1名)。年間に10名前後の報告で推移していたが、2017年以降は6名/年以下で推移している。乳児を対象としたHibと肺炎球菌ワクチンの定期接種がはじまって以降はこれらを原因とする小児例の報告は1例もなく、成人例も近年減少している。

14) 無菌性髄膜炎 (基幹定点の報告疾患)

報告数 0名 (12月 1名)。従来は年間20-30名台の報告数で推移していたが、2017年7名、2018年1名、2019年5名、2020年2名、2021年も3名と少なく流行はない。

15) マイコプラズマ肺炎 (基幹定点の報告疾患)

報告数 0名 (12月 1名)。2020年11月以降は、同時期として過去10年間で最少が続いている。

基幹定点の月報疾患

16) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

報告数 17名 (12月 25名)。平年並みとあっていいだろう。高知市と幡多から報告された。

17) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

報告数 0名 (12月 0名)。2020年1月以降は発生がない。

高知県感染症発生動向調査部会
前田 明彦

高知県における月別全数報告疾患 (令和4年1月)

類型	病名	報告月	総計
		1月	
2	結核	6	6
4	レジオネラ症	1	1
5	アメーバ赤痢	2	2
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1	1
	梅毒	2	2
総計		12	12

高知県感染症情報 月報 (63定点医療機関)

2022年 1月

定点名	疾病名	保健所							計	前月	前年同月
		安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多				
内科・小児科	インフルエンザ					7		7	3		
小児科	咽頭結膜熱		2	13			9	24	46	15	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	6	2	32	3	1	11	55	88	39	
	感染性胃腸炎	21	136	206	52	46	143	604	379	134	
	水痘	6	1	4	2			13	11	19	
	手足口病			2		1		3	13	37	
	伝染性紅斑			3				3	1	3	
	突発性発疹	4	5	11	5	4	6	35	45	39	
	ヘルパンギーナ						1	1	6	27	
	流行性耳下腺炎			1				1	1	1	
	RSウイルス感染症								2		
眼科	急性出血性結膜炎										
	流行性角結膜炎			1				1	1		
STD	性器クラミジア感染症			3				3	3	4	
	性器ヘルペスウイルス感染症										
	尖圭コンジローマ								2		
	淋菌感染症			2				2			
基幹	細菌性髄膜炎								1		
	無菌性髄膜炎								1		
	マイコプラズマ肺炎								1	1	
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)										
	感染性胃腸炎 (病原体がロタウイルスである ものに限る)			1				1	3	1	
	メチシリン耐性黄色 ブドウ球菌感染症			16			1	17	25	26	
	ペニシリン耐性肺炎 球菌感染症										
	薬剤耐性緑膿菌 感染症										
計		37	146	295	62	59	171	770	632	346	
前月		19	111	358	36	25	83				
前年同月		13	60	166	31	19	57				
小児科定点数		2	7	9	3	2	5				

高知県感染症情報 月報 (63定点医療機関)

2022年

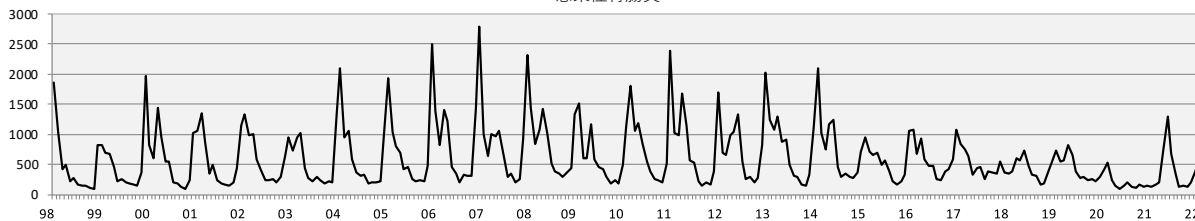
1月

定点当たりの人数

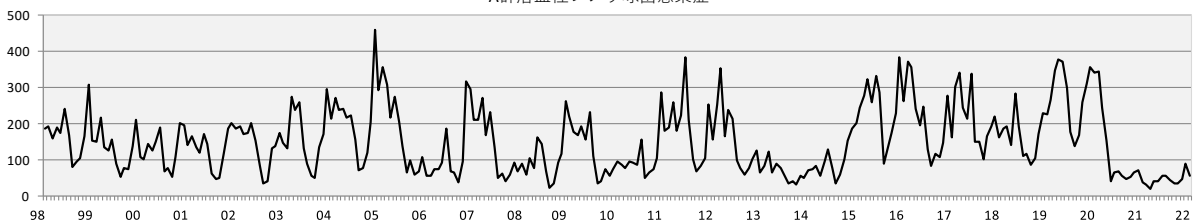
定点名	疾病名	保健所						計	前月	前年同月
		安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多			
内科・小児科	インフルエンザ					1.75		0.15	0.06	
小児科	咽頭結膜熱		0.28	1.44			1.80	0.85	1.65	0.54
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	3.00	0.28	3.56	1.00	0.50	2.20	1.97	3.14	1.39
	感染性胃腸炎	10.50	19.43	22.90	17.34	23.00	28.60	21.57	13.54	4.79
	水痘	3.00	0.14	0.44	0.67			0.47	0.40	0.68
	手足口病			0.22		0.50		0.12	0.46	1.32
	伝染性紅斑			0.33				0.12	0.04	0.11
	突発性発疹	2.00	0.72	1.22	1.66	2.00	1.20	1.25	1.60	1.39
	ヘルパンギーナ						0.20	0.04	0.23	0.97
	流行性耳下腺炎			0.11				0.04	0.04	0.04
	RSウイルス感染症								0.07	
眼科	急性出血性結膜炎									
	流行性角結膜炎			1.00				0.33	0.33	
STD	性器クラミジア感染症			1.50				0.50	0.50	0.67
	性器ヘルペスウイルス感染症									
	尖圭コンジローマ								0.33	
	淋菌感染症			1.00				0.33		
基幹	細菌性髄膜炎								0.13	
	無菌性髄膜炎								0.13	
	マイコプラズマ肺炎								0.13	0.13
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)									
	感染性胃腸炎 (病原体がロタウイルスであるものに限り)			0.20				0.13	0.39	0.13
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症			3.20			1.00	2.13	3.13	3.25
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症									
	薬剤耐性緑膿菌感染症									
小児科定点分計		18.50	20.85	30.22	20.67	27.75	34.00	26.58	21.23	11.23
前月		9.50	15.15	36.81	11.85	12.25	15.40			
前年同月		6.00	7.56	15.76	10.33	9.50	11.40			

注目される疾患別月別推移

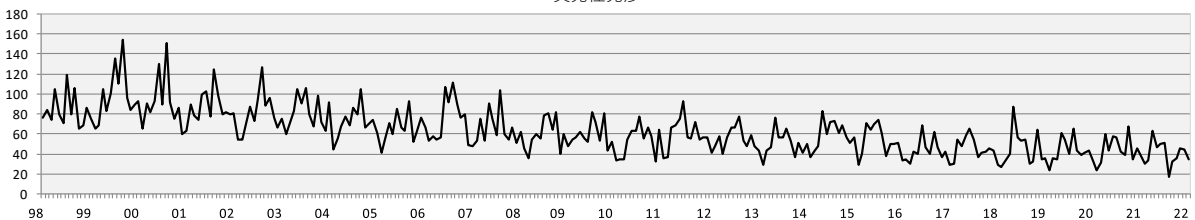
感染性胃腸炎



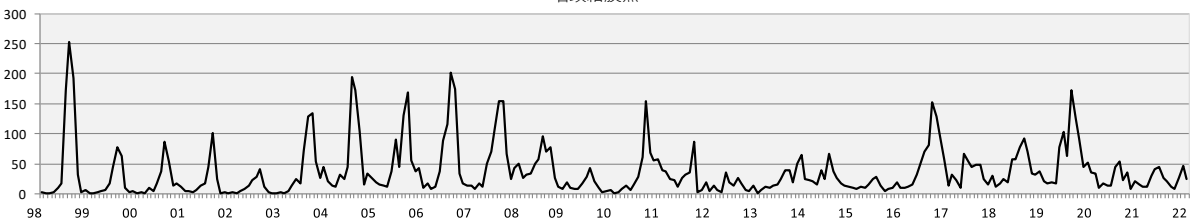
A群溶血性レンサ球菌感染症



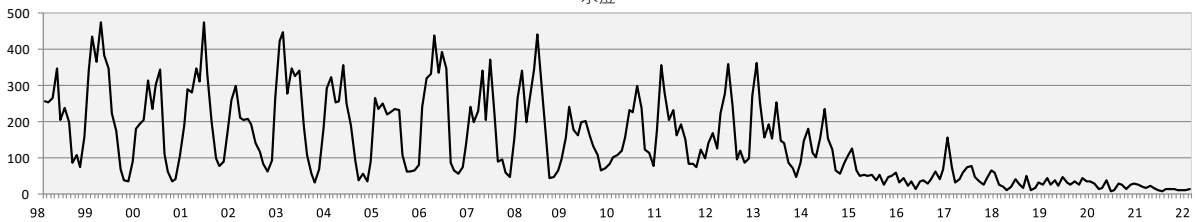
突発性発疹



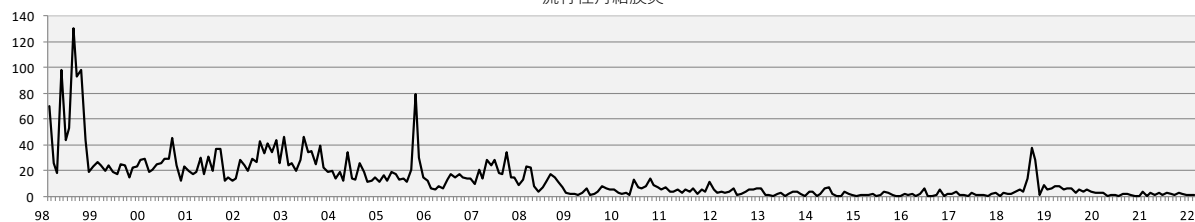
咽頭結膜熱



水痘



流行性角結膜炎



高知県感染症情報（月報）

2022年1月

検査情報

ウイルス、細菌の分離状況

令和4年1月はウイルス5件の搬入があり、そのうち ウイルス1件の病原体を検出しました。また、令和3年12月に搬入された検体からウイルス 3件を検出した。検出ウイルスの内訳は、Adenovirus 2 1件、Cytomegalovirus 1件、Human herpes virus 7 1件、Rhinovirus 1件であった。（令和4年1月13日から第6波と考えられる新型コロナウイルス感染症検査実施数の急激な増加が認められますので、当所では感染症発生動向調査をしばらくの間中断をさせていただきます。）

ウイルス、細菌の分離状況

No	年齢	性別	臨床診断名	臨床症状	検査材料名	採取日	ウイルス、細菌の検出
1	1	女	-	39°C,咳嗽,	ぬぐい液	12/7	Rhinovirus
2	1	女	不明発疹症	40°C,発疹,	ぬぐい液	12/8	Cytomegalovirus
3	2	女	水痘	発疹,	ぬぐい液	12/20	Human herpes virus 7
4	1	女	咽頭結膜熱	40°C,	うがい液	1/6	Adenovirus 2

病原体検出状況

臨床診断名	病原微生物				2021	2021年
		10月	11月	12月	年総	1月
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	<i>Streptococcus pyogenes</i> Untypable	1			1	
	計	1			1	
インフルエンザ	Influenza virus A H1pdm09				0	
	Influenza virus B /Victoria				0	
	計				0	
咽頭結膜熱	Adenovirus 2				0	1
	Human herpes virus 6		1		1	
	計		1	0	1	1
感染性胃腸炎	Coxsackievirus B5				0	
	Norovirus GI NT				0	
	Norovirus GII NT		1		1	
	Rotavirus group AG9				0	
	Sapovirus genogroup unknown				0	
	計		1		1	
ヘルパンギーナ	Coxsackievirus A4				0	
	Coxsackievirus A10				0	
	計				0	
手足口病	Coxsackievirus A6		3		3	
	Coxsackievirus A16				0	
	計		3		3	
流行性角結膜炎	Adenovirus 2				0	
	計				0	
伝染性紅斑	Human parvovirus B19				0	
	計				0	
流行性耳下腺炎	Mumps virus				0	
	計				0	
RSウイルス感染症	Respiratory syncytial virus A				0	
	Respiratory syncytial virus B				0	
	計				0	

臨床診断名	病原微生物	2021年			2021年 年総	2021年 1月	
		10月	11月	12月			
水痘	Human herpes virus 7			1	1		
	Varicella-zoster virus				0		
	計			1	1		
突発性発疹	Human herpes virus 6				0		
	Human herpes virus 7				0		
	計				0		
その他	Adenovirus C			2	2		
	Cytomegalovirus			1	1	2	
	Human herpes virus 6				1	1	
	Respiratory syncytial virus A			2	2		
	Rhinovirus			9	1	10	
	計			14	3	17	
総計			1	19	4	24	1

※2021年1月～10月までは感染症発生動向調査を中断しております。

類型	病名	報告年																						総計			
		1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020		2021	2022	
2	結核									131	149	163	156	192	132	128	138	129	122	110	97	103	60	65	6	1881	
	計									131	149	163	156	192	132	128	138	129	122	110	97	103	60	65	6	1881	
3	コレラ	1					1						1													3	
	細菌性赤痢	11	4	2		3	1	2	2											2						27	
	腸管出血性大腸菌感染症	11	8	18	15	2	10	9	3	25	4	19	12	3	8	3	5	2	34	2	4	9	1			207	
	腸チフス			1					1										1			1				4	
	パラチフス	2																								2	
	計	25	13	20	15	5	12	11	6	25	4	19	13	3	8	3	5	3	34	4	4	10	1	0	0	243	
4	A型肝炎	3	5	3	2	4	2	1	4	1			3					3	1			2				34	
	E型肝炎												1		1							2	1			5	
	オウム病			1		1														1						3	
	Q熱	1	1	2				1																		5	
	重症熱性血小板減少症候群																3	11	3	7	5	5	9	6	4	53	
	つつが虫病		9	5	2	4	5	7	6	2	5	4	2	5	8	3	3		4	11	2	3	3	1		94	
	デング熱													1		3	2	1				2				9	
	日本紅斑熱	15	3	14	7	14	13	10	3	1	6	6	7	15	4	1	7	4	13	6	13	10	23	16		211	
	日本脳炎	1	1	1					1		1	1														6	
	マラリア								2					1								1				4	
	レジオネラ症		2		1		1				9	7	3	6	9	2	4	4	3	6	9	7	8	8	1	90	
	レプトスピラ症											1		4	2	1					1					9	
	計	20	21	26	12	23	21	19	16	4	20	19	18	31	24	13	27	15	28	30	29	36	41	29	1	523	
5	アメーバ赤痢		2	2	2	1	2	2	2	1		3	2	2	3		7	3	2	5	3	3		1	2	50	
	ウイルス性肝炎	11	4	3	5	2	2	3	5	5	4	3	3		3		1			2	1	1	2	2		62	
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症																7	19	21	22	21	20	10	5		125	
	急性弛緩性麻痺																					1	2				3
	急性脳炎								1	1	2	5	1	3	1		1	1	1	1		2	1	1		22	
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1	1	4		4	3	3		6		1	3				2			2	1	1	3			35	
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症			1	1	1				1		1		1	3		1		3	5	6	2	2	5		33	
	後天性免疫不全症候群	2		2		2	4	2	3	6	3	3	2	3	3	2	7	6	9	6	9	1	6			81	
	ジアルジア症		1	2	1						1			1	1							1				8	
	侵襲性インフルエンザ菌感染症																1	5	3	4	7	3	1	1	1	26	
	侵襲性肺炎球菌感染症															1	4	12	16	18	14	22	11	9		107	
	水痘（入院例に限る）																	2	1	1	3		3	3		13	
	髄膜炎菌性髄膜炎										1															1	
	梅毒	2	3	4	4	12	9	6	27	6	5	5	2	4	10	8	4	11	12	23	19	20	35	96	2	329	
	播種性クリプトコックス症																				1	3	5			9	
	破傷風		3	2	2	1		1	1	2	3	1	1	1	1		4	3	3	1		2	3	1		36	
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症			1							1							1			1	1				5	
百日咳																					173	172	35	3	383		
風しん										1	1				4	9	1				3				19		
麻疹											5														5		
計	16	14	21	15	23	20	17	39	29	25	23	14	15	29	20	40	63	72	94	268	251	112	127	5	1352		
新型	新型インフルエンザ											34														34	
	新型コロナウイルス感染症																							663	3505	4168	
	計											34												902	3505	4441	
動物	鳥インフルエンザ												1													1	
	計												1													1	
総計		61	48	67	42	51	53	47	61	189	198	258	201	242	193	164	210	210	256	238	398	400	1116	3726	12	8441	